

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		療育支援工房 秋田泉教室				公表日	令和7年2月27日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	・ 階段を使わないよう1階を主としている。 ・ 活動室と学習室を分けており、学習のしている子の妨げにならないようにしている。	・ 放課後等デイサービスのお子様の活動と同じ部屋で活動する時間帯があるため、学習室から活動室への放課後等デイサービスのお子様の移動に配慮が必要。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	4	・ プログラム内容などを工夫し、放課後等デイサービスのお子様と同じ時間帯でも児童発達支援のお子様に職員が付き添えるようにしている。 ・ ほぼ児童発達支援のお子様は一人につき1名職員がついている。	・ 送迎時に職員の人数の不足を感じる為、人員増や送迎時間の調整などを検討していく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	4	・ ボードに1日の流れを見える化したり、イラスト、絵カードなどを用いながら構造化を図っている。	・ 設備については、バリアフリー化などは困難な為、階段利用時、手洗い場、トイレには必ず職員が同行するなど配慮していく必要がある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1	・ 毎日の清掃や、適宜換気や机の移動を行っている。 ・ 適宜、清掃・消毒を行っている。	・ 定員に近い利用日には、やや活動空間が狭い印象がある。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	・ 体調不良や精神不調などの場合は、面談室などを利用し個別で過ごすことが出来ている。 ・ 痲痺時の個別対応ができるようにしている。	・ 体調不良時に横になって休めるよう寝具を用意する必要がある。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	1	6	・ 朝礼などで共有を図り、前日の支援の仕方などについて振り返りを行っている。 ・ 常にミーティングを実施し、個人個人のゴール設定を決めている。	・ 明確な評価基準等が設定されていないため、目標設定が難しい場合がある。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	・ 保護者アンケートを回収後、改善点などについて職員で話し合っている。	・ 今回が開所後初のアンケートなので、保護者の意向を反映し、よりよい環境を提供していく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	・ 毎朝のミーティングでの意見交換や定例会議を月1回以上実施している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	4		・ 創業から1年未満の為、行っていない。 ・ 今後実施していきたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	2	・ 外部研修へ申し込んだり、社内研修では児発管が主となり研修を行っている。 ・ Zoomなどで行われる外部研修に参加している。	・ 様々な出来事に対してのロールプレイングを多く実施していきたい。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	・ 支援プログラムの公表を行っている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	0	・ 初回アセスメントの他に、必要に応じて保護者面談を行っている。また利用時とも面談を行う場合がある。	・ あまり関与していないので、積極的にかかわってきたい。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	・ 原案作成後、指導員一人ひとりに意見を聞いている。 ・ 毎日のミーティングで常に共有している。 ・ 児発管が作成したあとに職員全員で確認したり、不明な点はすぐ確認できる体制になっている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	・ 日々の出来事を共有している。 ・ 個別支援計画は全員が目を通しており、優先事項なども職員間で共有出来ている。	・ 職員が不慣れであるため、勉強会などの必要性がある。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	2	・ 日々の出来事を共有している。	・ 標準化されたツールがなく、日々の行動観察などがメインとなっている。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	・保護者へのアセスメントや指導員とのケース会議、また関係機関との連携を図りながら課題を踏まえ、支援内容を考えている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	3	・個人個人の意見を常に共有している。 ・毎月活動プログラムを考えており、今後外出イベントなども行っていく。	・職員の状況によって、一人で立案から準備まで行わなければならない時がある。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	・ブレインプログラムを活用している。 ・毎月の製作やイベント以外は子どもたちが自由にやりたい活動ができるようになっている。	・短時間で集団でできる活動プログラムも考えていく必要がある。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	・個別の活動では、そのお子様に合わせ毎回プログラムを考えている。	・集団活動に参加が難しいお子様もいるので配慮が必要。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	・朝礼やそれぞれの空き時間を利用して確認を行っている。 ・毎日ミーティングを実施している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0	・その日の出来事を共有している。 ・翌日のミーティング時に気づいた点などの共有を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	・紙ベースの記録と、システム上で記録を行っている。 ・利用者の情報共有を行い、議事録を残している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	・指導員一人ひとりに話を聴き、達成具合などを把握している。 ・半年に一回モニタリングを実施し、振り返りを行なっている。	
	関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1	・児発管と指導員で参加している。
25		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0	・相談支援事業所や関係機関と連携しながら支援を行っている。 ・必要機関と連携をとって情報共有している。	
26		併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	3		・児童発達支援を開始してまだ1か月しか経っておらず、相互理解は十分ではない。
27		就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	3		・今後行っていく。
28		(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29		質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30		(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31		(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	3		・連携は図っているが、助言の機会は設けていないので検討する。 ・スーパーバイズの機会がないため、今後検討していく。
32		保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	6		・今後地域の中で活動する機会の提供なども検討していく。 ・交流の場を広げる必要がある。
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	・サービス提供記録を保護者へ公開。送迎時やLINEなども活用し保護者と話す機会も設けている。 ・日々の送迎時に状況を伝えている。		

保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	3	・子どもの困りごとだけでなく、保護者の困りごとなどもうかがい、できる限り情報提供を行っている。 ・随時ペアレントトレーニングの受付をしている。	・周知が行き届いていない。 ・SNSなどで定期的に情報発信を行っている。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	・契約時に伝えている。不明な点があれば、その後も対応できる環境を整えている。	・全職員が説明できるわけではない。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	・日々の送迎時にご要望を聞き取るようにしている。	・保護者の意思が優先されてしまうことがあり、お子様からの聞き取りの必要性を感じる。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	0	・面談時等に一緒に読み合わせを行い、具体的な支援内容を説明している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	・気軽に相談できるようLINEやHUGのメッセージ機能を用いてやりとりをしている。 ・悩みがあるときは別途時間を設けて必要なサポートを行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	7		・保護者会を実施する機会がないため、今後開催を検討していきたい。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	・相談窓口を設置している。	・体制整備に時間がかかるときがある。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	0	・記録に写真を添付するなどして、保護者の方に発信している。 ・ブログ、インスタ等で情報公開を行なっている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	・鍵付き書庫で保管している。 ・個人情報の持ち出しは担当者会議以外に行っていない。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	・必要に応じて、書面にして伝えるなどしている。 ・必要な情報は共有している。	
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	6		・地域との交流の機会の提供を検討していく。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	2	・マニュアルを用意し、いつでも確認、対応できるようにしている。	・利用者を含めた防災訓練などを行っていく必要がある。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	2	・訓練を実施している。	・簡易的な訓練しか行っていないため、今後消防などに依頼しての訓練実施も検討していく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	0	・利用登録時にフェイスシートをご提出いただいております。利用中に服薬がある際には別途服薬についての書類をご提出いただいております。 ・契約時に確認している。賞状が出た場合は個々に合わせた対応をできるようにしている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	・製造ラインを確認し提供しても大丈夫なのかを確認している。 ・アレルギーの有無を契約時に必ず確認している。	・おやつの際に他のお子様と差が出てしまい、配慮が必要。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	・マニュアルを用意し、いつでも確認、対応できるようにしている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	・契約時に保護者の方に説明を行っている。	
51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	7	0	・問題が起きた際には、原因追及と対策をしっかりと行っている。	・怪我などがない場合、保護者への報告はしているが、支援記録のみの記入で、ヒヤリハット用に記録を行っていない時がある。	

52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	・定期的に研修の機会を設けている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	0	・日々の支援の中で、身体拘束は必要な状況が発生する可能性があるお子様に対して、保護者に事前に説明を行っている。	・身体拘束を行わなくて済む方法を考えていく必要がある。